

赤平市民劇場第2回公演は感動のうちに幕がおりました。

キャスト・スタッフのみなさんの一生懸命さが観客の心に響き、感動を与えてくれた公演でした。
「きずな」への思いを代表・志田敏彦さんに熱く語っていただきます。

1年半の「きずな」づくり ニミュージカル第2作を終えて＝

私たち市民劇場は「きずな」第2作「礎・赤平のはじまりは・・・」11月6日
昼夜2回の公演を無事終え、多くの市民と感動を共有することができました。

唐突な言い方ですが、ミュージカルを公演するのに、1年半もかけるグループは私た
ちの市民劇場ぐらいであろう。

なぜ、こんなに時間を費やすのか？現代のスピード時代に、1年半もかけるのは
もったいないと考えるのは当たり前であろう。だから「費やす」という表現も使ったの
である。

しかし、ここが問題なのである。果たして「ムダに費やすことになるのか」そして「早
いことがそんなに大事なのか」という疑問を私たちはもっている。

そのキーワードは「みんな」である。

脚本・合唱の歌詞・曲・舞台・衣装すべて手づくりで、みんなで作りあげるのである。
「きずな」という団体名も、ここから生まれたものである。今回で2回経験したが、経
験を積みれば少しは早くできるというものでもない。

プロでは、このやり方では成り立たない。それが素人だから可能なのである。素人
にはもう一つ大切なことがある。それはみんな同じレベルであることを意味する。「役割
」はあっても、階級的上下関係は一切ないことである。

さらにもう一つ、まとめることの難しさも伴うが、あえてこうした方法を選ぶのは、
この作業での課程で、お互い人間の「きずな」が育っていくと信じているからである。

一年半は、ムダではなく、「きずな」を育てるエキスであると、今回も実体験した。

文：赤平市民劇場きずな 代表・志田敏彦さん

ボラ館の

目からウロコ



「ボラ館」こと、ボランティア館長の
宇戸さんは、FMG-Sky「ビバそらの輪」
赤平担当で、生活にとっても役立つ情
報コーナー「ボラ館の目からウロコ」
担当しています。

まだ、吸っているの？

おっばいではありませんよ。 たばこです。

先日、日本の医学会合同研究班が「喫煙は病気」と位置
づけたと発表しましたね。

今年7月頃よりたばこのパッケージに8項目の警告文が表
示されるようになりましたが、内容を理解していますか？

アスベストで肺にできるガンの中皮腫が問題とな
っていますが、たばこの有害物質による健康をそこなうリ
スクは場合によってはアスベスト以上に大きな危険なの
ですよ。

もし、初めからこれほど、有害なものであるということが
解っていたら、かなりの方々はたばこに手を出さずに済ん
でいたはずですよ。

今からでも決して遅くはありません。あなた自身とあな
たの家族の為に、1日でも早く卒煙して左団扇でたばこ値
上げを見守りませんか。

文：社）北海道薬剤師会 健康づくり委員 宇戸 啓隆

<発行>NPO法人赤平市民活動支援センター 〒079-1136 赤平市本町3丁目1番8(赤平市民館内) TEL・FAX 32-3888

<発行責任者・表紙>新出 郁子(広報部f-7) <編集者>佐藤 智子(広報部)

E-mail: rabika@mocha.ocn.ne.jp URL: http://rabika.sakura.ne.jp